

ふりがな

こばやし たずこ

氏名

小林 多寿子

1. 学歴

1980年3月 同志社大学文学部社会学科社会学専攻卒業
1982年3月 大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程修了
1987年3月 大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学

【学位】

1982年3月25日 学術修士号 大阪大学
1994年6月21日 博士（人間科学）大阪大学

2. 職歴・研究歴

【職歴】

1987年4月1日 浦和短期大学専任講師（1991年3月31日まで）
1991年4月1日 浦和短期大学助教授（1994年3月31日まで）
1994年4月1日 日本女子大学人間社会学部現代社会学科助教授（2001年3月31日まで）
2001年4月1日 日本女子大学人間社会学部現代社会学科教授（2010年3月31日まで）
2010年4月1日 一橋大学大学院社会学研究科教授（2020年3月31日まで）
2020年4月1日 一橋大学大学院社会学研究科特任教授

【在外研究歴】

1988年7月～1989年8月 カナダ・ヨーク大学客員研究員（カナダ政府リサーチスカラシップ Government of Canada Awards, Research Scholarship による）
1990年7月～8月 カナダ・ヨーク大学客員研究員（カナダ政府研究奨学金 Government of Canada Awards, Canadian Studies Faculty Research Program による）
1996年8月～9月 トロント大学客員研究員（カナダ政府研究奨金 Government of Canada Awards, Canadian Studies Faculty Research Award による）
1998年7月～1998年10月 トロント大学客員研究員（日本学術振興会特定国派遣による）
1999年9月～2000年9月 フランス CNRS/EHESS 客員研究員（日本女子大学海外研修・日本私学振興財団助成金による）

3. 学内教育活動

（A）主な担当講義名

（a）学部学生向け

社会調査論
質的調査研究

（b）大学院

社会調査 I 2010年度-2020年度
質的研究と方法 2021年度

（B）ゼミナール

導入ゼミナール

後期ゼミナール3年・4年

大学院演習

4. 主な研究テーマ

日系カナダ人・日系アメリカ人の戦争体験と戦後のコミュニティ形成研究

社会学におけるバイオグラフィカル・アプローチとライフストーリー/ライフヒストリーの方法論的研究

語りとオーラルティの経験社会学的研究

社会現象としての自伝を書く運動と自己語りの歴史社会学的研究

20世紀後半の日本の社会学における質的調査研究の展開をめぐる歴史社会学的研究—リサーチ・ヘリテージ論と森岡清美調査資料群

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

【単著】

- 1 『系譜から学ぶ社会調査—20世紀の「社会へのまなざし」とリサーチ・ヘリテージ』2018年8月 嵯峨野書院 総頁数147頁
- 2 『物語られる「人生」—自分史を書くということ』1997年8月 学陽書房 総頁数241頁

【編著】

『ライフストーリー・ガイドブック—ひとがひとに会うために—』2010年8月 嵯峨野書院 総頁数400頁
<総編集および執筆担当部分>

「はじめに ライフストーリーの世界へ」vii-xii

「西倉実季『顔にあざのある女性たち』14-17頁

「ガーフィンケル、H.「アグネス、彼女はいかにして女になり続けたか」26-29頁

「フーコー、M.編『ピエール・リヴィエールの犯罪』30-33頁

「ミルズ、C.W.『社会学的想像力』34-36頁

「黒澤明/橋本忍(脚本)映画『羅生門』50-53頁

「アルヴァクス、M.『集合的記憶』132-135頁

「木下順二/鶴見和子編『母の歴史』206-209頁

「加藤秀俊/米山俊直『北上の文化』214-217頁

「プラマー、K.『セクシャル・ストーリーの時代』248-249頁

【共編著】

- 1 『自己語りの社会学—ライフストーリー・問題経験・当事者研究』共編著者・浅野智彦 2018年8月 新曜社 総頁数274頁
<担当部分>
「第5章 自己を語ること・人生を書くこと—ともに各自自分史の世界」107-133頁
「編者あとがき」270-274頁

- 2 『歴史と向きあう社会学—資料・表象・経験—』 共編著者・野上元 2015年7月 ミネルヴァ書房 総頁数384頁
 <担当部分>
 「第14章 オーラルヒストリーと戦争体験の<歴史化>—『沖縄県史』第9巻と宮城聰文書」323-348頁
 「あとがき」355-359頁
- 3 『ライフストーリー・インタビュー—質的研究入門』 共編著者・桜井厚 2005年12月 せりか書房、総頁数277頁
 <担当部分>
 「第二章 ライフストーリー・インタビューをおこなう」71-117頁
 「第四章 ライフストーリーを書く/もちいる」209-253頁

【共著】

- 1 『方法としての<語り>—民俗学をこえて—』 編者・岩本通弥 2020年4月 ミネルヴァ書房 総頁数347頁
 <担当部分> 「社会学における質的データとアーカイヴ化の問題—オーラリティと声の公開の可能性」277-296頁
- 2 『語りが拓く地平—ライフストーリーの新展開』 編者・山田富秋 好井裕明 2013年10月 せりか書房 総頁数259頁
 <担当部分> 「『福翁自伝』におけるオーラリティと多声性—声の分析の試み」
- 3 『質的調査の方法—都市・文化・メディアの感じ方』 編者・工藤保則 寺岡伸悟 宮垣元 2010年2月 法律文化社 総頁数157頁
 <担当部分> 「ライフストーリー法—いかに「具体的な人間」を描くことができるのか」71-83頁
- 4 『日本の社会と文化』 編者・井上俊 伊藤公雄 2010年9月 世界思想社 総頁数280頁
 <担当部分> 「成熟のドラマ—D・W・プラス『日本人の生き方』1980」177-186頁
- 5 『過去を忘れない—語り継ぐ経験の社会学』 編者・桜井厚 山田富秋 藤井泰 2008年12月 せりか書房、総頁数240頁
 <担当部分> 「ミニドカを語り継ぐ—日系アメリカ人のインターンメント経験とジェネラティヴィティー」20-34頁
- 6 『戦後世相の経験史』 編者・桜井厚編 2006年5月 せりか書房 総頁数246頁
 <担当部分> 「書く実践と自己のリテラシー—『ふだんぎ』という空間の成立」240-261頁
- 7 『文化社会学への招待—<芸術>から<文学>へ』 編者・亀山佳明 富永茂樹 清水学 2002年4月 世界思想社 総頁数344頁
 <担当部分> 「物語のなかの他者性」184-204頁
- 8 『エスノグラフィー・ガイドブック—現代社会を複眼でみる』 編者・松田素二 川田牧人 2002年1月 嵯峨野書院 総頁数320頁
 <担当部分> 「オスカー・ルイス『サンチェスの子供たち—メキシコの一家族の自伝』」118-121頁、2002年
- 9 『臨床社会学を学ぶ人のために』 編者・大村英昭 2000年10月 世界思想社 総頁数280頁
 <担当部分> 「人生の語りとナラティブ・アプローチ」71-91頁
- 10 『フィールドワークの経験』 編者・好井裕明 桜井厚 せりか書房 2000年5月 総頁数248頁
 <担当部分> 「二人のオーサー —ライフヒストリーの実践と呈示の問題—」101-114頁
- 11 『生活文化を学ぶ人のために』 編者・石川実 井上忠司 世界思想社 1998年4月 総頁数316頁

- <当部分>「自己をつづる文化—日記と自分史の誕生—」209-228 頁
- 12 『地方文化の社会学』編者・間場寿一 世界思想社 1998年1月 総頁数288頁
 <担当部分>「ライフヒストリーのなかの地域—移民送出の地方文化—」244-266 頁
- 13 『ライフヒストリーの社会学』編者・中野卓 桜井厚 弘文堂 1995年2月 総頁数272頁
 <担当部分>「インタビューからライフヒストリーへ—語られた「人生」と構成された「人生」—」70-90 頁
- 14 『文化の地平線—人類学からの挑戦—』編者・井上忠司 祖田修 福井勝義 世界思想社 1994年4月 総頁数582頁
 <担当部分>「『経験の物語』と『複合的自叙伝』—ライフヒストリーの重ね合わせをめぐる—」43-70 頁
- 15 『組織とネットワークの社会学』編者・宮本孝二 森下伸也 君塚大学 新曜社 1994年4月 総頁数240頁
 <担当部分>「合成された「ふるさと」—都市における同郷者集団—」119-130 頁

(b) 論文

<査読付き>

- *1 「自己を書くことと記憶—アルヴァクスの自伝的記憶—」『心理学評論』心理学評論刊行会 Vol.51 No.1、184-195 頁、2008年
- *2 「書く実践と書く共同体の生成—初期「ふだん記」運動の場合—」『生活学論叢』日本生活学会、第3号、59-70 頁、1998年
- *3 「<親密さ>と<深さ>—コミュニケーション論からみたライフヒストリー—」『社会学評論』日本社会学会、第42巻第4号、419-434 頁、1992年
- *4 「都市の経験—ライフ・ヒストリーのなかの都市」『ソシオロジ』社会学研究会、第30巻第2号、47-67 頁、1985年

<査読なし>

- 1 「1950年代60年代の調査実践と研究キャリア形成—森岡清美の調査スタイル」『一橋社会科学』「特集：森岡清美調査資料群と戦後の社会調査の展開」第11巻別冊、一橋大学大学院社会学研究科、129-155 頁、2019年11月
- 2 「オーラル・ヒストリーとアーカイヴ化の可能性：質的データ・アーカイヴ化研究会調査より」『日本オーラル・ヒストリー研究』第15号、日本オーラル・ヒストリー学会、2019年9月30日、77-78 頁
- 3 「日本の自分史実践における「第二の生産者」と自己反省的言説」『法學研究』第90巻第1号、慶應義塾大学法学研究会、476-494 頁、2017年1月28日
- 4 「質的調査データの公共性とアーカイヴ化の問題」『フォーラム現代社会学』第13号、関西社会学会、114-124 頁、2014年5月31日発行
- 5 「オーラルヒストリーとピルグリメージ—日系アメリカ人の聖地と<巡礼>—」『日本オーラルヒストリー研究』第8号、日本オーラルヒストリー学会、2012年9月8日、31-46 頁
- 6 「オーラルヒストリーと地域における個人の<歴史化>—沖縄戦体験を語る声と沖縄県米須の場合—」小林多寿子、『三田社会学』第15号、三田社会学会編、3-19 頁、2010年
- 7 「声を聴くこととオーラルティの社会的可能性」小林多寿子、『社会学評論』日本社会学会、237号第60巻1号、73-89 頁、2009
- 8 「オーラルストーリーと「個人の歴史化」—ある日系アメリカ人一世の「ライフ」への視点—」『フォーラ

- ム現代社会学』関西社会学会、第7号、49-61頁、2008年
- 9 「現代女性の職業キャリアと日本女子大学卒業生のライフコース—2006年インタビュー調査から—」『日本女子大学総合研究所紀要』第10号、95-104頁、2007年
 - 10 「ミニドカ・ピルグリメージ—オーラルストーリーからみる日系アメリカ人の「記憶の場」—」『日本オーラル・ヒストリー研究』日本オーラル・ヒストリー学会、第1号、34-49頁、2006年
 - 11 「ピエール・ブルデュ—「伝記的幻想」とライフストーリー論—」『日本女子大学紀要 人間社会学部』第16号、17-26頁、2006年
 - 12 「ライフヒストリー法のリバイバルと階層研究からの出発—D・ベルト—の展開—」『社会学研究』第77号、45-64頁、2005年
 - 13 「語られたタクジ・ヤマシタ—日系アメリカ人—世のライフストーリー再構築—」『日本女子大学紀要 人間社会学部』第14号、1-20頁、2004年
 - 14 「パリに生きた最晩年の日々—日記からみる都市生活誌—」『現代風俗学研究』現代風俗研究会東京の会、第6号、63-76頁、2000年
 - 15 「自己のメディアとしての日記—近代日記の成立—」『現代のエスプリ』391号、至文堂、73-83頁、2000年
 - 16 「戦争体験と自分史—「記憶の共同体」をもとめて—」『日本女子大学紀要 人間社会学部』第8号、127-140頁、1998年
 - 17 「「ストーリーの社会学」の可能性—個人的経験のナラティブからの出発—」『同志社社会学研究』第1号、31-37頁、1997年
 - 18 「一万歩の思想—歩く人たちの都市風俗誌—」『現代風俗学研究』現代風俗研究会東京の会、第3号、91-113頁、1997年
 - 19 「Narrative and Rashomon-like Technique」『日本女子大学紀要 人間社会学部』第7号、23-30頁、1997年
 - 20 「賞をめざした自分史—動機の語彙と「人生」の呈示—」『日本女子大学紀要 人間社会学部』第6号、23-38頁、1996年
 - 21 「都市におけるノスタルジア・ネットワーク」『統計』財団法人日本統計協会第47巻第3号、20-24頁、1996年
 - 22 「ライフヒストリー研究の視点から見た自分史」『現代のエスプリ』338号、29-41頁、至文堂、1995年
 - 23 「自分史と物語産業の誕生—1980年代の動向から—」『日本女子大学紀要 人間社会学部』第5号、89-108頁、1995年
 - 24 「〈ふるさと〉に会える都市—尼崎と同郷者集団—」『季刊 TOMORROW』通巻32号、財団法人あまがさき未来協会、55-65頁、1994年
 - 25 「トロントの日系社会形成と日系新聞—1950年代の『大陸時報』分析—」『浦和論叢』浦和短期大学、第10号、97-130頁、1993年
 - 26 「トロントの日系社会と同郷者集団の変遷—1950年~1990年—」『浦和論叢』浦和短期大学、第9号、23-61頁、1992年
 - 27 「自伝のモデルとしての二つの『告白』—アウグスティヌスとルソー—」『浦和論叢』浦和短期大学、第8号、29-53頁、1992年
 - 28 「Japanese Regionalism outside Japan: Kenjinkai in Toronto」『浦和論叢』浦和短期大学、第6号、125-138頁、1991年
 - 29 「Japanese Immigrants in Toronto: The case of emigrants from Wakayama Prefecture in Toronto」『浦和論叢』浦和短期大学、第2号、95-110頁、1989年
 - 30 「〈都市化〉とノスタルジ—都市における奄美出身者の心性—」『年報人間科学』大阪大学人間科学部、

第8号、23-40頁、1987年

- 31 「都市のなかの『ふるさと』—京阪神芝会の日—」『年報人間科学』大阪大学人間科学部、第7号、17-36頁、1986年
- 32 「都市の形態論から表象論へ - R・ルドウリュウを中心として - 」『年報人間科学』大阪大学人間科学部、第4号、177-192頁、1983年

(c) 翻訳

- 1 ダニエル・ベルトー著『ライフストーリー—エスノ社会学的パースペクティブ』[Daniel Bertaux, *Les Récits de Vie*, 1997]ミネルヴァ書房、2003年
- 2 ケン・プラマー著『セクシャル・ストーリーの時代—語りのポリテクス—』[Ken Plummer, *Telling Sexual Stories: Power, Change and Social Worlds*, 1995] (桜井厚・好井裕明と共訳)、新曜社、1998年
- 3 L.L.ラングネス&G.フランク著『ライフヒストリー研究入門—伝記への人類学的アプローチ—』[L.L.Langness & Gelya Frank, *Lives: An Anthropological Approach to biography*, 1981] (米山俊直と共訳)、ミネルヴァ書房、1993年

(d) その他

<研究ノート>

- 1 「リサーチ・ヘリテージとしての森岡清美資料群—森岡調査資料との出会い—」「表A 森岡調査資料群概要と調査研究成果」『一橋社会科学』「特集：森岡清美調査資料群と戦後の社会調査の展開」第11巻別冊、一橋大学大学院社会学研究科、3-21頁、2019年11月
- 2 「オスカー・ルイス—開かれたフィールドワークへ」『社会と調査』No.21、100頁 2018年9月30日
- 3 「「保苺実の世界」への誘い」(<特集1 保苺実記念シンポジウム いまあらためて「保苺実の世界」を探る>)『日本オーラル・ヒストリー研究』第13号、5-6頁、2017年9月1日
- 4 「もうひとつの「保苺実の世界」—父母の語る『ラディカル・オーラル・ヒストリー』への道」保苺桂子・保苺信男、小林多寿子編、『日本オーラル・ヒストリー研究』第13号、35-51頁 2017年9月1日
- 5 「川添登と生活学会の誕生—生活学ヘリテージ・インタビューから—」『生活学論叢』Vol.28、45-54頁 2015年
- 6 「<人生>を書く、<人生>を語る：ライフストーリー—実践の町から」『TASC monthly』たばこ総合研究センター 455、13-18頁、2013年
- 7 「『福翁自伝』におけるオーラリティと多声性」『慶應義塾福沢研究センター通信』第16号、慶應義塾福沢研究センター、2012年3月31日、3頁
- 8 「Pilgrimage for Representing Collective Memory: Identity and Biographies of Japanese Americans」『Research Committee 38 Biography and Society of ISA Newsletter/December 2007』、22—28頁、2007年
- 9 「個人的記憶と家族のストーリー—日系アメリカ人研究への視点—」『ソシオロジ』社会学研究会、第51巻1号、179-181頁、2006年
- 10 「「人、ひとにあう」ということ—米山俊直のまなざし—」『現代風俗学研究』現代風俗研究会、第12号、55-59頁、2006年
- 11 「風俗としての「人生」—自分史をフィールドワークする—」『物語の風俗』現代風俗研究会年報23号、河出書房新社、34-49頁、2001年
- 12 「物語ることの風俗」『物語の風俗』現代風俗研究会年報23号、河出書房新社、6-11頁、2001年
- 13 「Finlande: une <academie> d'autobiographie」『La Faute a Rousseau』no.25, Revue de l'association pour l'autobiographie et le patrimoine autobiographique, 53-54頁、2000年

- 14 「Biographical Studies in Japan」『Biography & Society Newsletter 1999』 Biography & Society Research Committee 38 of the International Sociological Association, 10-11 頁、1999 年
- 15 「生活史」『アエラムック 生活科学がわかる』No.44、朝日新聞社、47 頁、1998 年
「自分史ブームから家族の変容をみる」『アエラムック 家族学のみかた』No.39、朝日新聞社、110-113 頁、1998 年
- 16 「伝記と「人生」の解釈」『月刊百科』371 号、平凡社、8-12 頁、1993 年
- 17 「異文化のなかの老い—トロントにおける日系老人のライフストーリー・インタビューから—」『ソシオロジ』社会学研究会、第 34 巻 1 号、87-92 頁、1989 年

<書評>

- ヴァレリー・R・ヤウ著、『オーラルヒストリーの理論と実践—人文・社会科学を学ぶすべての人のために』（吉田かよ子監訳・訳、平田光司・安倍尚紀・加藤直子訳、インターブックス、2011 年刊）『日本オーラルヒストリー研究』第 8 号、日本オーラルヒストリー学会、2012 年 9 月 8 日、185-188 頁
- 「小倉康嗣著『高齢化社会と日本人の生き方—岐路にたつ現代中年のライフストーリー—』慶應義塾大学出版会、2006」『三田社会学』第 12 号、三田社会学会、125-128 頁、2007 年
- 「桜井厚著『境界文化のライフストーリー』せりか書房、2005」『週刊読書人』第 2580 号、2005 年
- 「反差別国際連帯解放研究所しが編『語りのちから—被差別部落の生活史から—』弘文堂、1995 年」『週刊読書人』第 2118 号、1998 年
- 「『物語られる「人生」』書評に答えて」『ソシオロジ』社会学研究会、第 43 巻 1 号、163-165 頁、1998 年
- 「A.Strauss 『Images of the American City』1976」『現代風俗』現代風俗研究会、第 7 号、277-284 頁、1983 年

<報告書>

- 1 『2011-2013 年度 科学研究費 研究成果報告書 質的データ・アーカイブ化とリサーチ・ヘリテージ』質的データ・アーカイブ化研究会、2014 年 3 月
「はじめに—質的データ・アーカイブ化研究会 2011-2013—」1 - 5 頁
「第 3 章 学会シンポジウム報告—関西社会学会と日本社会学会」32-41 頁
「1 - 2 社会学における質的調査データとアーカイブ化の問題」
「2 日本社会学会シンポジウム 2013 」
「第 5 章 リサーチ・ヘリテージ 2 森岡清美先生物置調査と調査資料群」89 頁
- 2 「オーラルヒストリーとアーカイブ化の問題—社会学からの議論」岩本通弥・法橋量・及川祥平編『オーラルヒストリーと<語り>のアーカイブ化に向けて—文化人類学・社会学・歴史学との対話—』日本民俗学会国際シンポジウム、成城大学民俗学研究所グローバル研究センター、56-68 頁（総頁 172 頁）2011 年 3 月 25 日
- 3 『ライフストーリー論からみる 1950 年代の生活記録運動とリテラシーの変容の経験的研究』科学研究費基盤研究（C）平成 17~19 年度 課題番号 17530391 研究成果報告書、2008 年
- 4 『日本女子大学卒業生のライフコースと現代女性の生き方—2006 年インタビュー調査報告書』日本女子大学総合研究所 2006 年度総合研究課題 28「女子大学における生涯学習の意義」プロジェクト調査報告書、2007 年 9 月
担当部分：「はじめに」、Ⅱ部 53-106 頁、Ⅲ部 卒業生たちのライフストーリー—2006 107-164 頁
- 5 『「ふだん記」運動の展開過程と戦後のリテラシーの変容に関する実証的研究』科学研究費基盤研究（C）平成 15~16 年度 課題番号 15530340 研究成果報告書、2005 年
- 6 『大学卒業後の生活・意識と大学評価に関する調査報告書(1)—日本女子大学卒業生の調査から—』日本女

子大学総合研究所「女子大学の将来展望に関する総合的調査研究」プロジェクト報告書、総括および 第4章「卒業生たちのライフストーリー」執筆、1998年

<事典項目執筆>

1 『社会学事典』

執筆項目：「オーラルヒストリー」日本社会学会社会学事典刊行委員会編、丸善、640-641頁 2010年6月30日

2 『福祉社会事典』

執筆項目：「ライフヒストリー」「自分史」「生活綴方運動」「ケーススタディ」[編者 庄司洋子・木下康仁・武川正吾・藤村正之]、弘文堂、1998年

3 『生活学事典』

執筆項目：「ライフストーリー」207-208頁、「日記」211-214頁、「ライフサイクル」209-210頁 [川添登・一番ヶ瀬康子監修、日本生活学会編]、TBSブリタニカ、1998年

B. 本研究科着任後の研究活動（着任 2010年）

(a) 国内外学会発表

- 1 「オーラルヒストリーとアーカイブ化の可能性—2012年質的データアーカイブ化研究会調査より」日本オーラル・ヒストリー学会シンポジウム「オーラルヒストリーのアーカイブ化を目指して」於・上智大学 2018年3月17日
「質的調査データとアーカイブ化の問題」家族社会学会第2回NFRJ質的調査研究会 於・早稲田大学 2017年11月23日
- 2 「Voices and Self-Reflective Discourse of Facilitators Involved in Japan's Autobiographical Movement」ISA 3rd Forum of Sociology ISA, 10-14 July, 2016 at University of Vienna, RC38 Biography & Society Session 「On the Uses of the Reconstructive Analysis of Autobiographical and Work : Narratives for Professional Discourse and Self-Reflection」 於・ウィーン大学、2016年7月12日
- 3 「質的調査データの公共性とアーカイブ化の問題」関西社会学会第64回大会シンポジウム「質的調査のアーカイブ化の問題と可能性」2013年5月19日 於・大谷大学
ミニシンポジウム 「生活学ヘリテージ・プロジェクト2012」日本生活学会第40回大会 2013年6月2日 於・神奈川大学
- 4 「オーラルヒストリーとピルグリメージ」シンポジウム「四国遍路—ピルグリメージとオーラルヒストリー」日本オーラル・ヒストリー学会第8回大会、於・松山大学、2011年9月11日
- 5 「Public story and Biography: reconstructing life story of a Japanese American」国際社会学会 RC38 共催国際会議「Ethnicity, Belonging, Biography and Ethnography」、於・ドイツ ゲッティンゲン大学 2007年12月9日
- 6 「オーラリティとはなにか」日本オーラル・ヒストリー学会第5回大会シンポジウム、於・日本女子大学 2007年9月15日
- 7 「ライフストーリーと<個人の歴史性>—ある日系アメリカ人一世の「ライフ」への視点—」関西社会学会第58回大会シンポジウム「オーラル・ヒストリーと歴史」、於・同志社大学 2007年5月27日
- 8 「Pilgrimage for Representing Collective Memory: Identity and Biographies of Japanese Americans」国際社会学会第16回世界会議、RC38 Biography and Society、Session4: Biographical Processes and Collective Identities、於・南アフリカ共和国ダーバン 2006年7月27日
- 9 「ミニドカ・ピルグリメージ—オーラルストーリーからみる日系アメリカ人の「記憶の場」—」日本オーラ

- ル・ヒストリー学会第3回大会、於・京都大学 2005年9月18日
- 10 「ある日系アメリカ人一世の「ライフ」—伝記的方法としてのオーラルストーリー—日本オーラル・ヒストリー学会第2回大会、於・立教大学 2004年9月12日
 - 11 「ライフヒストリーからみる「トロントの経験」—ある日系一世女性の場合—」日本移民学会第9回大会パネル・ディスカッション「女性移民の人類学」於・大阪学院大学 1999年9月
 - 12 「書くことと語ること—「個人的経験のナラティブ」への視点—」第4回同志社大学社会学研究学会、於・同志社大学 1999年7月
 - 13 「ライフヒストリー研究と「確からしさ」—「個人的経験のナラティブ」からの視点—」関東社会学会第47回大会 テーマ部会「質的調査法」、於・早稲田大学 1999年6月
 - 14 「口述の語りと〈学〉のことは」関西社会学会第50回大会 ミニ・シンポジウム「臨床のことはと〈学〉のことは」、於・関西大学 1999年6月
 - 15 「Narrative and Rashomon-like Technique」1996年度SPHS(The Society for Phenomenology in the Human Sciences)年次大会、於・ジョージタウン大学、ワシントンD.C.、アメリカ合衆国 1996年10月
 - 16 「インタビューからライフヒストリーへ—「人生」の構成と呈示—」日本社会学会第66回大会、テーマセッション「ライフヒストリー研究の理論的諸課題」於・東洋大学 1993年10月
 - 17 「Japanese Regionalism outside Japan」33rd International Congress of Asian and North African Studies, 於・トロント大学、カナダ 1990年8月
 - 18 「新大阪地域居住者の地域観と日常生活—ライフヒストリー・アプローチから—」日本民族学会第25回研究大会、分科会「新大阪の研究—都市人類学の応用の試み—」、於・中部大学 1988年5月
 - 19 「都市の形態論から表象論へ—フランス都市社会学の展開—」関西社会学会第33回大会、於・愛知大学 1983年5月

<招聘講演>

- 1 「キャリアデザインと質的調査法—ライフストーリー研究からの可能性—」法政大学キャリアデザイン学部・法政大学キャリアデザイン学会主催、法政大学学部10周年記念シンポジウム「新時代のキャリアデザイン—10年の研究と教育から探る—」於・法政大学市ヶ谷キャンパス 2012年10月19日
- 2 「『福翁自伝』におけるオーラリティと多声性—ライフストーリーのなかの〈声〉を読む—」シンポジウム「多角的に読む『福翁自伝』」、主催：慶應義塾福澤研究センター、於・慶應義塾大学 2011年11月17日
- 3 「オーラルヒストリーとアーカイヴ化の問題—社会学からの議論—」小林多寿子、日本民俗学会国際シンポジウム「オーラルヒストリーと〈語り〉のアーカイヴ化に向けて—文化人類学・社会学・歴史学との対話—」日本民俗学会主催、2010年9月20日
- 4 「ライフストーリー・アーカイヴとしての〈ふだん記〉運動—書く実践と書く共同体の生成」東京外国語大学21世紀COEプログラム「史資料ハブ研究拠点」オーラルアーカイヴ班研究会、於・東京外国語大学 2005年5月31日
- 5 「方法としてのライフヒストリー—D・ベルトーからの展開」東北大学大学院文学研究科21世紀COEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点」特別ワークショップ、共催・科学研究費プロジェクト「学術資源学の構想」、於・東北大学大学院文学研究科 2004年12月27日
- 6 「Autobiographical writings as social phenomena in contemporary Japan」『European Life Story Seminar』フィンランド自伝・フォークアートアカデミー主催、於・カルサマキ、フィンランド 2000年7月

(b) 国内研究プロジェクト

<科研費研究代表者として>

2020-2023 年度 基盤研究 (C)

「森岡調査資料群からみる戦後初期の社会調査と質的調査法成立過程の歴史社会学的研究」

2019-2021 度 基盤研究 (C) 特設分野「オラリティと社会」

「自己語りとオーラルコミュニティ形成の経験的研究—交話機能と地域の歴史の再構築」

2017-2019 度 基盤研究(C)

「社会学者の自伝とリサーチドキュメントから再構成する質的調査展開の知識社会学的研究」

2014-2016 度 基盤研究 (C)

「戦後日本の質的社会調査の系譜とリサーチ・ヘリテージとしての継承可能性の経験的研究」

2011-2013 度 基盤研究(C)

「質的データとしてのライフストーリーのアーカイブ化と〈調査遺産〉継承の経験的研究」

2008-2010 度 基盤研究 (C)

「ライフストーリーのアーカイブ現象にみる〈個人の歴史化〉と世代継承性の経験的研究」

C. 受賞

1998 年度 橋本峰雄賞

6. 学内行政

(B) 学内委員会

教職課程委員 2012 年度

国際交流委員 2013 年度・2014 年度

社会調査士委員会 委員長 2014 年度～2017 年度前半期、2018 年度後半期～現在

研究倫理審査委員会 2015 年設立準備 WG 委員、2016 年度 委員長

7. 学外活動

(a) 他大学非常勤講師など

1999 年度～2007 年度 早稲田大学商学部非常勤講師

2002 年度～2003 年度 成蹊大学文学部現代社会学科非常勤講師

2003 年度～2004 年度 横浜市立大学大学院国際文化研究科非常勤講師

2003 年度 法政大学大学院社会学研究科社会学専攻非常勤講師

20018 年度～現在 立教大学大学院社会学研究科兼任講師

(b) 所属学会および学術活動

日本社会学会 国際活動委員 2003～06 年、学会賞選考委員 2012～13 年、研究活動委員 2012～15 年、『社会学評論』編集委員会専門委員 2006 年～2009 年 2012 年～15 年

関東社会学会 2007 年～09 年理事・研究活動委員、2011 年～13 年理事・学会誌編集委員、13 年大会開催校理事、2013 年～15 年理事・研究活動委員

関西社会学会 理事 2013 年～16 年

日本オーラルヒストリー学会 監事 2004 年～05 年、2005 年～2007 年理事・研究活動委員、2007 年～2009 年理事・会長、2009 年～11 年理事、2013～17 年理事、2019 年～ 理事・研究活動委員

日本生活学会 2005 年～08 年理事・事業委員、2008 年～10 年理事・学会誌編集委員、2010 年～12 年理事・編

集委員長、2012年～14年理事・会長、2016年～2020年理事 2021年度 今和次郎賞選考委員委員長
社会学系コンソーシアム理事 2013年～16年
国際社会学会 ISA RC38 理事会理事 2002年7月～現在、2018年7月より Vice-president

(c) 公開講座・市民講座

2003年7月 かわさき市民アカデミー生活福祉講座 川崎市生涯学習振興事業団

(e) その他（公的機関・各種団体・民間企業等における講演等）

2005年11月 「ライフヒストリーを聞く・過去と現在を結ぶ」戦後60周年「戦争体験を聞き、これからの平和を考える」川崎市平和館企画展講演、於・川崎市平和館

2006年2月 アフガニスタン・シンポジウム「平和構築—アフガニスタン戦後復興—」セッション2「アフガニスタンが歩む女性のエンパワーメント」パネリスト、於・国連大学

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

2004年度～2006年度、2014年～15年度、2018年度～2019年度日本学術振興会 科学研究費専門委員